

公立大学法人 大分県立看護科学大学
平成22事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成23年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

判断理由

○大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目の評価については、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。また、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目の評価については、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

○「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、NPの社会的ニーズ調査を実施し、その結果を厚労省へ提供するなど制度化に向けた活動を行ったこと、看護の基盤教育となる人間科学講座を充実したこと、全国に先駆けた4年間の看護師教育や助産師・保健師の養成の大学院化を導入したこと、ウズベキスタンの「看護教育改善プロジェクト」のフォローアップ評価を実施したことなど、計画以上の成果を達成して事項が見受けられたことなどから、S評価（特筆すべき進行状況にある）とした。

○以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している」とした。

<委員会からのコメント>

- ・大分県立看護科学大学は、中期目標の達成に向けた年度計画を着実に実行しており、看護の基盤教育となる人間科学講座を充実したこと、全国に先駆けた4年間の看護師教育や助産師・保健師の養成の大学院化への取組み、NPの制度化に向けた活動など、理事長のリーダーシップのもと教職員が一体となって順調に取組が進められている。
- ・中期目標期間（H18～H23）最後の1年だが、本中期計画の達成と次期目標期間に向け、更に魅力ある大学づくりの取組を期待する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価並びに情報提 供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

2 大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、76項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、看護の基盤教育となる人間科学講座を充実したこと、NPの社会的ニーズ調査を実施し、その結果を厚労省へ提供するなど、制度化に向けた活動を行ったこと、全国に先駆けた4年間の看護師教育や助産師・保健師の養成の大学院化を導入したこと、看護国際フォーラムの開催、ウズベキスタンの「看護教育改善プロジェクト」のフォローアップ評価を実施したことなど、計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

※特筆すべき項目

小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。

なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
(I-1-(1)ア(ア)a-1)a-2))

○看護師教育のカリキュラムの構築

・全国に先駆けて、学部での4年間の看護師教育の実施と保健師、助産師教育の大学院化を導入した。

・基礎力や看護実践能力を強化した新カリキュラムを構築した。

○看護師の基礎教育のうち、特に基盤教育の充実

・解剖、生理、病理、薬理、微生物といった基礎知識のレベルアップとともに、専門性を高めた臨床現場で役立つ応用基礎を取り入れ、カリキュラムの充実を図った。

(I-1-(1)ア(イ)a-1)a-2) a-3) a-4)) 【2】

○新カリキュラムにおける実習の意義・目的についての、臨床指導者の理解の促進

・基幹実習施設である県立病院のほか、新たに大分赤十字病院、アルメイダ病院に勤める臨床指導者に対する説明会を追加・拡大して実施した。

(I-1-(1)イ(ア)b-1) b-2))

(I-1-(1)イ(ア)d))

(I-1-(1)イ(ア)f-1)f-2)) 【2】

○助産師・保健師養成の大学院化の取り組み

・全国で初めて保健師養成を大学院行うための56単位を修了要件とするカリキュラムを整備し、平成23年度入学者の募集を開始した。

・学部での助産師教育を廃止し、大学院のみで助産師教育を行うことを決定した。

(I-1-(1)イ(ア)c-1) c-2) c-3)) 【2】

○ONPの大学院教育の推進

・看護科学大学とNP養成大学との教育到達レベルの標準化を図り、NPの範囲を示す

プロトコールを完成した。

○NPの制度化に向けた活動の推進

- ・看護科学大学の活動がきっかけとなり、厚生労働省から特定看護師制度が提案された。
- ・県内の過疎・無医地区及び医療機関が充実している相反する2地区でNPの社会ニーズ調査を実施し、NPの必要性和広報の重要性について示唆された。厚生労働省へ、その結果を情報提供するなど、制度化に向けての活動を行った。

(I-1-(2)イ)a-1)a-2)【2】

○進級試験の実施

- ・進級試験を実施し、日程、内容の検証を行った。
- ・進級試験不合格者に対し、教育研究委員、学生生活研究委員及び教務学生グループによる支援体制を構築した。

(I-1-(2)イ)c-1)c-2)c-3)

○授業評価システムの検討

- ・教員を対象としたアンケート調査を実施し、授業評価を行った。また、各学年で総合評価の高い講義を録画し、今後の授業に活用するため、教員向けにオンデマンド配信した。

(I-1-(2)ウ)a-1)a-2)a-3)

○ITを活用した教育環境の整備・充実

- ・学生の自己学習を支援するため、手指消毒など感染予防の説明や小テストを内容とするDVD教材を作成した。併せて学生の質問に教員がタイムリーにアドバイスできる質問窓口を設けた。

(I-1-(4)ウ)b)

○国家試験支援体制の強化

- ・基礎科目の強化、弱点強化対策、国家試験対策委員による個別面接指導など実施した結果、看護師助産師国家試験合格率は100%であった。

(I-1-(4)エ)a-1)a-2)a-3)a-4)a-5)

(I-1-(4)エ)b-1)b-2)

○就職希望の学生に対する相談支援体制の強化

- ・4年生対象の県内24施設による就職説明会の実施や3年対象の就職ガイダンスを年2回実施し、就職支援を行った。
- ・模擬面接を6回開催するなど、学生への就職支援を行った結果、就職率100%を達成した。

(I-2-(1)ア)b-1)b-2)【2】

(I-2-(2)ア)c)【2】

○研究の推進

- ・「健康増進プロジェクト」は、慶応義塾大学と協力して、生活習慣、体力、身体活動量、インフォーマルネットワークの調査を姫島村で実施し、地域の健康増進システムについての可能性を検討するとともに、姫島村健康づくり指導員を40名育成した。
- ・地域貢献として「マタニティ用入浴品の開発」の研究開発を推進した。

(I-2-(2)イ)d)

○看護国際フォーラムの開催

- ・看護国際フォーラムを開催し、220名が参加した。参加者のアンケートに基づくテーマ選定により、地域貢献につながる国際的な研究・討議の場となっている。

(I-3-(1)a-1)a-2)【2】

○認定看護師コースの体制づくり

- ・認定看護師（訪問看護）コース教育課程で7名が修了した。講義の一部を公開し、8

科目延べ34名の受講生を受入れた。

(I-3-(2)a) 2】

○NPプロジェクトの推進

・米国及び韓国から講師を招聘し国際会議を実施した。

(I-3-(2)b-1)b-2)【2】

○ウズベキスタンの「看護教育改善プロジェクト」のフォローアップの実施

・ウズベキスタンを訪問し、看護学校の視察を実施した。JICAと共同して、終了したプロジェクトのフォローアップ評価を実施した。

・看護教育改善カリキュラムが導入され、改善が進んでいることを確認。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	50(5)			38(1)	12(4)
研究	13(2)			10	3(2)
社会貢献	13(2)			10	3(2)
合計	76(9)			58(1)	18(8)
ウエイト考慮 後の合計	85			59	26

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、76項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

○NPが包括的アセスメントを行い、簡単な処方箋の記載などができるよう役割拡大を制度として進めることが、今後の国の課題である。

○医療・保健・福祉で活躍する幅広い人材育成を、大分県看護科学大学の「人間科学講座」も組み込んだ「看護学」の枠組みの中で、実際に構築しているところが素晴らしいと思う。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
運営体制	1			1	
人事の適正化	7			7	
合 計	8			8	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、3項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	1			1	
外部資金等の 獲得	1			1	
資産の適正管 理・有効活用	1			1	
合 計	3			3	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、3項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	4			4	
情報公開	4			4	
合 計	8			8	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用					
安全管理	6			6	
モラル・人権 啓発推進	3			3	
合 計	9			9	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし